

パステル



松原大田区長

阿部東松島市長

特集Ⅰ

3・11から学ぶ 防災と減災

3・11。日本国内史上最大のマグニチュード9を記録した東日本大震災の日を忘れる事は出来ません。

想像を超える津波被害、原発事故による収束の見えない放射線被害。私達は被災地の惨状をテレビで見続け、言葉を失い、「自分に何ができるか」と、自問しました。そして被災地からは、2つの大切なことを知らされました。

価値観を変えた私たち

ひとつは、日本は石油資源のない国、科学技術・物づくり立国だという原点への目覚めです。電気をジャブジャブ使うぜいたくな暮らしを支える原子力発電には、大きなリスクがあることが明らかになりました。

今、まぶしい照明の場はありません。冷房の設定温度を上げ、職場もスーパークールビズ。50人に1台という清涼飲料自動販売機の過剰に目を向け、あらゆる場で節電をしようと思うに至りました。

もうひとつは、これ以上ない悲惨さにも、被災地で人々が我慢強く立

CONTENTS

特集Ⅰ 防災と減災 3・11から学ぶ ①～③

パステルおすすめ本 ④

女性のための「たんぼぼ相談」④

特集Ⅱ 「男女共同参画」って何ですか? ⑤～⑦

インフォメーション ⑧

ち向かい、なお他者を思いやれるという日本人の心です。世界が賞賛したこの人心は、長く自然と共生し、地域や仲間と支え合ってきた日本人の暮らしが培ってきたものでしょう。2つともかつての都市生活にも確実に在ったもの。その価値観や生活行動の記憶が蘇りました。

今回の災害を受けて、各自治体は防災計画の見直しを進めています。東京都の被害や地盤の液状化予測地図は大幅に変わるかもしれません。大田区の防災計画、家庭での準備はどうでしょうか。

3・11が与えてくれた教訓を活かし、防災と減災について考えてみましょう。